



## ●サンゴのベッドですやすやす

### —魚の寝姿—

夜の海の中は、昼の海とはずいぶん違うことをこれまでもアムスルだよりで紹介しました(No.34、56など)。昼間にはあまり姿を見せないエビ、カニ、ヤドカリ、ヒトデ、ウニ、ウミシダ、巻貝などが盛んに動き回っていますし、時にはゴカイやエビ・カニの仲間やその子供が水中ライトにわんさと集まってきました。サンゴもたくさんの種類がのびのびと触手を広げていて、昼間の石のような姿とはまったく違った印象を受けます。こうした夜行性の動物たちの活動で、夜の海もけっこうにぎやかです。けれども、魚の姿は、昼に比べるとずいぶん少なくなります。いったいどこにいるのでしょうか。今回は、魚たちが夜どうしているのか、すこしだけ紹介したいと思います。

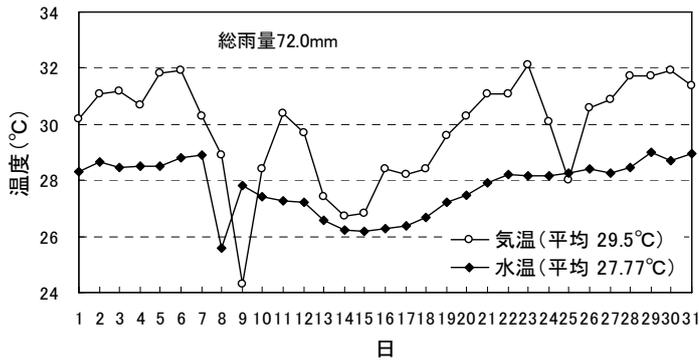
魚たちが全部昼行性かというとはそうではなくて、種類はそんなに多くありませんが慶良間の海にも夜行性の魚がいます。よく見かけるのはハタンポの仲間やアカマツカサなどです。夜、ハタンポの仲間は礁縁しょうえん付近のサン

ゴの群落ぐんらくの上に群れを作ってゆったりと浮かんでいることが多いようです。アカマツカサもハタンポと同じように、泳ぎ回るでもなく浮かんでいることが多いのですが、5、6月のサンゴの産卵する夜には活発に泳いでサンゴの卵を盛んに食べています。夜の海では、これらの魚が主役で、昼間にたくさん見かけるスズメダイやブダイなどはまったく泳いでいません。では、それらはどこに行ってしまったのでしょうか。気になったので、ちょっと探してみました。

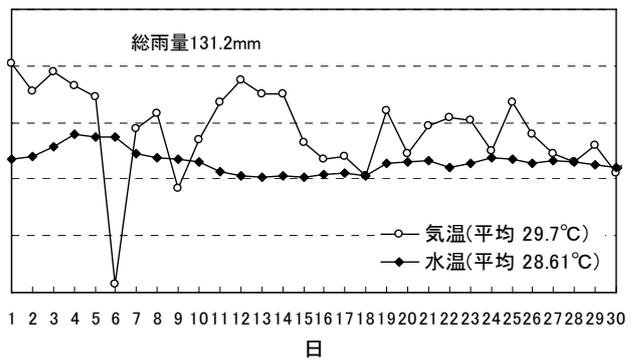
そっとライトを当ててみると、いました。わさわさと草むらのように茂ったミドリイシの枝の間にフタスジリュウキュウスズメダイでしょうか、昼間と違って全体に黒っぽい色になった魚たちがたくさんいます。このスズメダイは、昼間もミドリイシの枝の間に入りたり出たりしながら暮らしているので、夜になったらそのままサンゴの中で眠るのでしょう。枝状ミドリイシでは、テングカワハギが眠っています(左の写真)。この魚は、昼間はミドリイシの群体を泳ぎまわってそのポリプを餌にしていますが、夜にはそれを寝床にするようです。腹をサンゴの枝におしつけて、そして背びれのとげで別の枝をつっぱって体を固定しています。きっと寝ている間に流されてしまわないようにしているのでしょうか。別の場所では、ミドリイシサンゴではなくソフトコーラルのヤギ類の枝のすき間でも、同じように寝ていました。サンゴやヤギ類の枝のすき間は、どうやらとても良い寝床らしく、テングカワハギだけでなくほかの魚も良く寝ています。ミスジチョウチョウオなどが頭

## 定点観測

2006年 7月



2006年 8月



を下に向けて逆立ち泳ぎで寝ていますし、特にヤギ類ではアイゴやヤガラ仲間が寝ているのを良く見かけます。また、枝状アナサンゴモドキの群体の中では小型のベラたちが眠っていますし、テーブル状サンゴの下でもチョウチョウウオやニザダイの仲間が身をひそめていて、時々寝ぼけているのかサンゴに頭をぶつけていました。

サンゴ礁の海底は、死んだサンゴが積み重なってできた隙間やウニなどの岩盤を削る動物のはたらきでできた穴がたくさんあります。魚たちは、そうした穴の中でも眠っています。最もユニークなのはブダイの仲間でしょう。ハゲブダイやナンヨウブダイ、イロブダイなどは、岩のすき間に入り込んで、自分の体から出した粘液で寝袋を作り、その中で寝ています。この寝袋は、体から出る匂いがもれるのを防いで外敵から身を守ったり、寝ている間に寄生虫が侵入するのを防ぐといった効果があると考



粘液の袋の中で眠るブダイ

えられていますが、人間からすると、半透明の袋の中に魚がいるのは、ちょっと不思議な光景です。ツマジロモンガラなども穴の間に体を突っ込んで寝ていますが、カワハギの仲間にはその時に壁のでっぱりなどを口でかんでいるものがありました（体全体は見えなかったため種類はわかりませんでした）。内地の海にはアミメハギというカワハギの仲

間があって、これが寝るときには海藻などをかんで流されないようにすると言われていたから、穴の中のカワハギの仲間も同じ理由で壁をかんでいるのかもしれませんが。残念ながら、昼間たくさん見かけるルイリスズメやデバスズメはどこでどうやって寝ているのか、見つけることができませんでしたが、小さな穴のすき間などきつと安全な場所を見つけて身を隠しながら寝ているのでしょうか。寝ている魚たちは、本当は外敵や流れに対抗するために苦労しているのかもしれませんが。

ぐっすりと寝入っている魚たちを見ているとやっぱりなにかしらなごやかな気持ちになりましたが、目を開けたままで（魚にはまぶたがないので閉じることはできないのです）本当にぐっすり眠れるのか、やっぱり少し気になります。

## ● 阿嘉島の海より

9月11、12日にサンゴの産卵がありました。慶良間では5、6月の初夏の産卵が一般的に良く知られています。たしかに、この時期のサンゴの産卵は規模が最も大きく、サンゴというとすぐに思い浮かぶテーブルサンゴや枝サンゴなどが一斉に産卵するため、見ごたえもあります。でも、サンゴの産卵はその時期だけではないのです。サンゴの産卵時期は種類によって異なります。実はミドリイシの仲間のサンゴも8月や9月に産卵する種類は少なくないのです。機会があればこの時期のサンゴの産卵も観察してみてもどうでしょうか。